

# 第12回「杉並区教育ビジョン2022」意見交換会 報告書

開催日：令和4年10月28日  
会場：井荻中学校

## 「杉並区教育ビジョン2022」を考える

今回は、杉並区教育振興基本計画審議会で会長を務め「杉並区教育ビジョン2022」の策定に携った東京大学大学院教育学研究科の牧野篤教授による講義が行われました。井荻中学校を会場に2部制の講義を実施し、井荻中学校の生徒や、小中学校PTA、地域の方などが聴講し、多くの方が「杉並区教育ビジョン2022」について考え、理解を深める機会となりました。



第1部の会場の様子（井荻中学校 アリーナ）

### ①第1部

第1部はアリーナで開催し、井荻中学校の生徒など多くの人が聴講しました。

講義の冒頭、牧野教授は「杉並区教育ビジョン2022」をどのように作っていったか、審議会で行った議論の内容について話してくれました。

「現在のコロナ禍や、AIの発達、戦争のことなど、10年前の人には想像できませんでした。これから先の10年を見据えて、10年後に子どもたちにこうなっていてほしいという姿を描いて、教育ビジョンを作るのは難しいのではないかと考えました。子どもたちに自分で自分の人生を創ってもらうためには、何が大切なのか、大人には何ができるのかということを考えながら教育ビジョンを作っていました。」

約40分の講義の中でさまざまな話を聴くことができました。

「人は人との間に生まれ、人との間で育ち、人との間で生きている。他の人がいなければ自分は存在しない。」という話では、他者とのかかわり合いや対話の大切さを考えるきっかけになりました。また「人が学んできたことはもともと自分のものではなく、人から教わったこと。学んだことはたとえ奪われようとしても自分から無くならない。」という話では、学びの成果を贈り合うことの大切さを考えることができました。



「学んで何？教育って何？」

「言葉って誰のもの？」

「皆さんは生まれてきたの？それとも生んでもらったの？」  
さまざまな質問が生徒たちに投げかけられました。

## ②第2部

会場を多目的室に移し、引き続き第2部の講演が実施されました。第2部の参加者は小中学校PTAや地域の方など大人の方々に、主に「子どもや若者のために何ができるか」ということを考える講演になりました。

牧野教授から「Sense of Wonder (センス・オブ・ワンダー)」という言葉が紹介されました。これは子どもたちの「不思議に思う力、探究しようとする力」を示す言葉で、子どもにこの力を自由に発揮してもらう事が大切であり、そのためにも子どもの思いに共感する関係を大人が築いていくことが大切であると話がありました。

参加者は牧野教授のさまざまな話を通して、自分たちに何ができるのかということを考えていきました。



第2部の会場の様子（井荻中学校 多目的室）



令和2年度にスタートした新しい学習指導要領の話を通して、地域が果たす役割の大きさを考えました。

## 意見交換会を振り返って

今回は井荻中学校区の地域教育連絡協議会の事業の中で実施しました。事務局を務める青少年委員が昨年の研修で牧野教授の話聞いたことをきっかけに同区の小中学校の校長とも話し合う中で、「杉並区教育ビジョン2022」について生徒も大人も共に理解を深めたいという思いから実現しました。

参加者がアンケートに寄せた感想として、生徒からは「難しい内容だったけど、学ぶことの大切さを考えるきっかけとなった」や大人からは「中学生時代に『しあわせについて考える話』を聴くことは貴重だと思う」といった声がありました。

今回は井荻中学校の生徒や小中学校PTA、地域の方など幅広い方に参加してもらうことができました。「みんなのしあわせを創る杉並の教育」は子どもも大人もすべての人が当事者となって豊かに育てていくものですが、幅広い世代の方が対話や尊重し合うことの大切さを考える貴重な機会となりました。

地域教育連絡協議会は、家庭・地域・学校が密接に連携し地域教育の機能を高め、子どもたちの「生きる力」を育む環境づくりを目指して、中学校区ごとに設置されている組織です。地域の団体や学校、PTAなどが構成員となり運営されています。

### 第12回「杉並区教育ビジョン2022」意見交換会 報告書

- ・開催日 令和4年10月28日
- ・参加者 井荻中学校 生徒  
井荻中学校区の地域教育連絡協議会 外

令和4年12月 編集・発行 杉並区教育委員会 庶務課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111